

## 中川村新たな学校づくりプロジェクト 保育園保護者懇談会 出された意見等

- ・小中一貫は反対ではない。が、長野県でまだまだ普及していないため、イメージがわきにくい。村に適したカリキュラムがとても大事。それがはっきりしてくると良い。自由進度学習は、本人にとっては難しい。移行期にやっておくことが大切。ベースをしっかりと作っておかなければいけない。
- ・通学の問題が心配。遠いとバス通になると思うが、バス通になることによる制限、時間的な制限（まだやりたいことがあるのに、バスの時間で帰らなければならない）されるのでは。
- ・学校がなくなると地区が疲弊する。それを補う魅力が必要。学校の後利用を考えてから統合を。
- ・中川に限らず人口が減ってきている。村だけではできることが少なくなっていく。例えば部活。近隣と共同の部活とか、あり方を考えていく必要がある。他地域との繋がり、連携が必要。他地域の知り合いも増えるし、高1ギャップの解消にも繋がるのではないか。
- ・一貫校で9年制となるが、子どもの人数が少ないと1クラスでクラス替えができない。人間関係が難しくなった時が心配。逃げるできない、クラス替えのようにリセットされる機会もない。
- ・勉強、エデュケーションシステムが良くないと行けない。AI やお金のことばかりではダメ。心や愛のこと、将来自信を持って生きていける教育を。
- ・公立の義務教育学校でも、4-3-2制、5-4制等、学年の区切りを柔軟に変えていくことができるのか。⇒学年の区切りを変えることは可能。
- ・どこまで一極集中するのだろうかということがイメージがわからない。一つにまとめて新しく作るということか。児童クラブ等も。⇒学校は一つにまとめて新しく作るということ。
- ・12月の語る会と2月のシンポジウムの日を教えてほしい。⇒12/16(土)と2/17(土)
- ・白川郷の事例、状況を聞かせてほしい。⇒説明の機会を持ちたい。学校要覧の資料を届ける。
- ・時間帯はこの時間が良い。
- ・プロジェクトの状況、ここを見たら分かるというところを。情報の面もそうだが、懇談会の参加者が少ない。お父さんお母さんの関心が少ない。まだピンときていない。自分事に捉えられていない。今一歳児の子が新しい学校の1年生というような具体的な表現がまだ出てこない。
- ・語る会等、できるだけ早く広報、周知をしてほしい。
- ・「中川村らしい特色」「強みを活かす」というが、授業で特色を出していくのか。「こういう学校にしたい」をどういう部分で、色を出していくのか。
- ・今後の進め方、村民が関わるのは今が一番か。決まった後は関われないか。楽しく気軽に参加できるワークショップがありがたい。⇒今年度、来年度あたりが一番関わりを持ってもらう年。「こういう子どもに育ててほしい」という願いをもって関わりを。7年度以降は、もっと具体的になっていく。
- ・教育委員会として、子育て世代にやってほしいことは何か。⇒難しく考えずに、気軽に係わってほしい。コロナ禍もあり個人主義傾向が強くなっている。保護者の皆さんにも地域ぐるみを発信してほしい。
- ・教員の力が重要。多忙。どこまでが教員、どこが地域をはっきりしないと。教員に負担が増えると担い手がなくなる。仕事のライン、明確化が必要。
- ・池田町、保育園と学校の連携、相互参観を行っている。先生方が保育士を下に見ていたが、参観後

リスペクトするようになった。中川では可能か。⇒年1回は今行っている。それ以外にも、具体的に何年生と交流したいということで交流が行われている。お互いがお互いの子どものことを知り、どうやって教育したら良いのだろうと考えることが始まっている。管轄は違うが、保・小の接続の部分では、まだできることがあると思う。

- ・中川の人は割と控えめな人が多い。匿名で、紙やメールで送れるというシステムがあれば、意見を言えないという人も言えるのではないか。

#### 《提出された新たな学校づくりカードから》

##### 【教育カリキュラム】

- ・通常の教育以外の課題の充実（ネット社会、投資やお金について）、フリーラーニング、プログラミング

##### 【体制整備】

- ・他市町村でも部活動ができる
- ・資格、経験を持ったおじいちゃん、おばあちゃんが先生となって取り組む授業があっても良い

##### 【施設整備】

- ・教科書の電子化

##### 【通学方法】

- ・バスの検討

##### 【その他】

- ・全国から入学できるような取り組み



懇談会の様子

